

# とちぎ夢大地応援団活動報告（平成30年11月3日実施）

## 佐野市 多田地区「再生農地の刈り払い」

佐野市多田地区の柴田保全会（毛利昭一郎会長）のとちぎ夢大地応援団活動が11月3日、応援団員24名、地元柴田保全会員7名の合計31名が参加して、再生農地の草刈りを行いました。

旧田沼町の国道293号線沿いにある同地区は、6年前から春秋の年2回、柴田保全会員と応援団員が力を合わせて地区内の耕作放棄地の解消に取り組み始め、灌木や雑草が生い茂る約5haの放棄地の農地への再生を図ってきました。

今回は、ボランティア団体栃木ナルクの会員9名を含む夢大地応援団員と地元の人たちとで、ぬかるんだ悪い足場の中、背丈以上に伸びたアシなどの草と格闘し、約1.5haの面積の草をきれいに刈り払いました。多くの団員が60、70歳代という中で、18歳の男子大学生が参加し、ベテランたちと一緒に汗を流していました。

昼食後の交流会では、毛利会長から「地区内で唯一稲を耕作していた人が高齢のため今年でやめてしまい、ついに耕作者がゼロになってしまった。再生地に小面積だがやっとハナショウブが根付いたものの、地区として次の一手をどうするかが問題。アドバイスをお願いしたい」との話がありました。



「ケガのないようによろしく」毛利会長のあいさつを聞く参加者



今回の草刈り場所は一面、背丈以上に伸びたアシなどが覆い尽くしていました



足場がぬかるんでおり、草刈りは予想以上に大変でした





18歳の大学生・大森さんもベテラン団員に交じて草刈りに汗を流していました



2時間半で約1.5haのアシ原がきれいに刈り払われました



昼食後の交流会の様子